

東北学院大 女子大生が「目撃談」で

卒論作成

に入った女性がれば指名をして、トークルームに移動。気が合つて店外でのデートが成立すれば「自由恋愛」が可能となり、「ウラ風俗」として知られている。昼過ぎに店に行くと、女性ルームには誰もいなかった。常連客の男性が嘆く。「昨日も今日もガラガラだ



さまよう

「季節外れの服装」の人物が浮遊して……

震災幽霊

ね。震災後は20人ぐらい常時いて、人妻が家計のためにアルバイトにも来ていたんだけど……」薄暗い男性ルームで夕方まで待っている、女性ルームに6名の客が訪れた。プロフィールカードを確認すると、全員20代。それでも3名に増えた男性ルーム

は誰も指名に動かない。「今いる女性客は、ベテランが多いんです。今日は新規を待っているから、譲りますよ」(前出・常連客)そこで、プロフィールカードに「まりこ、23歳」と書かれたグラマラスな女性を指名。トークルームに行くくと、すでに2人掛けのベ

ンチに座っていた。「ふだんは清掃員の仕事をしています、仕事帰りに来ました。ゆっくりできる場所に移動して、おこづかいをくれる人が希望です。2万円から1万5000円、最近ではみんな財布が堅いの、1万円でもいいですよ」しかし「自由恋愛」を断

ると、あからさまに不機嫌な顔を見せて舌打ちをするまりこさん。フロール系の香水のにおいを残して部屋に戻っていった。歓楽街の景気によって明暗が分かれる「風俗産業」。継続的な好景気が訪れる日は、まだ遠いようである

聞えてきた

哀惜証言



女子大生が書いた論文の書籍化

霊があるのか、ないのかと聞かれれば、ないと答える現代人が多いだろう。東北学院大の女子学生が、復興が進む被災地で「幽霊」を乗せたタクシードライバーの証言に基づいて卒業論文を書いたことが話題になっている。本誌は「震災幽霊現象」の真相を突き止めるべく、現地を歩いた。

今年1月下旬、一冊の本が出版された。「呼び覚まされる霊性の震災学」3・11生と死のはざままで(新曜社)がそれだ。東北学院大

被災地の生と死の現場、死にどう向き合うか、などが記されたこの著書に(死者たちが通う街、タクシードライバーの幽霊現象)と題

●タクシーに乗車して「私、死んだのでしよつか?」  
●「恋人へのプレゼント」を残し消えた男の霊

# 被災地「夜のウラ現場」を往く!



タクシー運転手が体験談を語った(石巻駅前)

された章がある。読んで字のごとく、タクシーの運転手たちが見た「震災幽霊」を聞き取り調査したものだ。フィールドワークに当たったのは、金菱ゼミナールの7人の学生らで、卒論としてまとめたのは工藤優花さん(22)だった。指導した金菱教授が言う。

「震災後、被災地の沿岸各地で幽霊現象の見聞があつたのを絶ちませんが、石巻の市街地で調査していた工藤は、幽霊現象の中でもタクシードライバーの体験だけが特異であることに気づきました。というのも、他の霊現象は「見たかもしれない」という半ば不確かなものにとどまっているのに対して、ドライパーは霊を直接乗せて対話するなど、リアリティがあるんですよ」

「ドライパーは家族にも話していい。匿名を条件に、幽霊体験をひけらかすことなく話してくれた。夢でも見たんだろう、と言う人がいるかもしれないが、実際にメーターを切り、不払いの運賃はドライパー自身が自腹を切っているのです」(前出・金菱教授)

例えば、56歳のドライパーが深夜、石巻駅で客を待っている。夏にもかかわらず真冬のコートを着た30代ぐらいの女性が乗り込んできた。

「南浜まで」

女性が行く先を告げた。「あそこはもうほとんど更地ですが、かまいません。なぜ南浜まで? コートを着て暑くないんですか」

ドライパーがこう尋ねると、女性は震える声で聞き返してきた。

「私、死んだのではありませんか?」

「えっ!」

ドライパーがミラーで後部座席を確認すると、そこ

には誰もいなかった。そんな恐怖体験を工藤さんに打ち明けるとドライパーはこうも言ったという。「今となっちゃ、別に不思議なことじゃなかった。東日本大震災でたくさんの方が亡くなったじゃない。この世に未練がある人がいたって当然なもの」

## 「手を取った」女の子の姿が…

別の41歳のドライパーも、8月だというのに厚手のコートを着た20代とおぼしき男性を乗せた。夕方のことだった。目的地を尋ねたが、黙ったまま。前を指さしていたので再度聞く

と、「日和山」と言った。日和山は津波の被害が最もひどかった南浜地区の背後にある山。ドライパーは日和山まで車を走らせたが、到着した時、男性は後部座席にいなかった。

ドライパーは工藤さんに

こう話したという。「怖かったよ、本当に。生気を感じなかったうえに、季節外れの格好をしていたあたりからして不審には思ったけど、まさか幽霊が出るとは思わなかった。でもなあ、日和山の海岸側の南浜の更地と夕日を見たら、自然とその怖さもなくなっちゃったんだよね」

小学生の女の子を乗せたのは、49歳のドライパーである。13年8月のことで、車庫に回送する途中だったが、手を上げている女の子を発見し、タクシーを歩道につけた。

女の子は季節外れのコート、帽子、マフラー、ブーツを身に着けていた。「お嬢さん、お母さんとお父さんは?」

「独りぼっちなの」迷子だと思つたドライパーが家の場所を聞くと返答があつたので付近まで乗せていってやることにした。「おじちゃん、ありがと!」

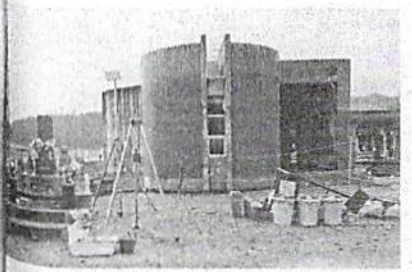
下りる際、ドライパーが手を取ってあげたので、女の子は礼を言った。が、運転席に戻ると、女の子は忽然と姿を消していたという。

「そのドライパーは工藤にこう話したといいます。『噂では、他のタクシードライバーでもそっくりな体験をした人がいるみたいですね、その不思議さはもうな

んてことなくて、今ではお母さんとお父さんに会いに来たんだらうなと思って。私だけの秘密だよ』」(前出・金菱教授)



津波被害が甚大な石巻市南浜地区の死者が「出現」



石巻市の大川小学校では全校児童の7割に当たる74人が犠牲に…

めると、マスクをした男性が乗り込んできた。

ドライバーが目的の地を聞くと、答える代わりに、「彼女は元気だろうか」「と独りごちた。

彼女？ 共通の知人のことなのか？ ドライバーはこの男性と知り合いだったかなと思ひ、

「どこかでお会いしたことありましたっけ」

と聞き返す。すると――。「彼女は……」

と言いかけて、気づくともう姿はなかった。

ところが男性が腰掛けていた場所には、リボンが付いた小さな箱が置かれていた。ちょうど指輪でも入るような……。男性が「彼女」にプレゼントするつもりだったのだろうか。

驚くべき「物証」を残していった「幽霊」。あれから2年近くが経過したが、

ドライバーはその箱を開けることなく、車内に保管しているという。

「ちよつとした噂では聞いていたけど、実際に身をもって体験するとは思っていなかったよ。さすがに驚

## 幽霊がきっかけで遺体を発見

「人をひいてしまった！」

そんな冷や汗が出るような体験をした人もいた。39歳の男性は震災から4カ月が経過したある日の夕方、車が人とぶつかった衝撃を感じた。慌てて車から降り、車体を点検してみたところが、血痕はなし。何の痕跡もなかったというのだ。

そして今――。石巻駅前で客待ちをしているタクシ―運転手に「震災幽霊」の話振ってみると、同僚ドライバーからのまた聞き談

いた。それでも、これから手を上げてタクシ―を待っている人がいたら乗せろし、たとえまた同じようなことがあっても、途中で降りろしたりなんてことはしないよ――

をポツポツと口にするのみ。金菱教授が言うように、語れば軽くなる、その他大勢の体験と変わらないうと取られかねず、幽霊体験をしたドライバーは皆、自分だけの秘密として封印しているのだ。

ベテランのドライバーは「幽霊というのには親族に犠牲者が出た遺族や、よほど霊感が強い人じゃないと見えないよ。石巻の幽霊騒動は、震災があった11年から12年がピークだった。亡くなった人は自分がまだ生きていると思つているから、さまざま巡りさんが見た、というような話もあった。ボランティアが被災地に入つて活動している頃には、こんなこ

ともあった。夜、身内を亡くした人を車に乗せて海沿いを走っていると、「ほら、あそこにいる！」と叫び始める。そして車を降りて、姿が見えたという方向へ走りだすんですよ。しかし、ボランティアには何も見えないんです」

石巻市内では復興事業が急ピッチで進んでいるが、建設作業員によれば、

「ワシの同僚に霊感が強いのがいて、背後にいる霊が見えるというんだよ。市内は震災直後、あっちこちで遺体が発見された。どこに出たとしても不思議じゃないんだ。でさあ、ワシの後ろに霊が立っていたのが見えたと言われてね。びっくりしたことがあるよ」

石巻市の病院に勤務する女性看護師(23)は震災直後から、急に霊が見えるようになった、と証言する。「昼夜関係なく、腐乱した死体があちこちにいるんですよ。でも、実際に近づくといない。今も、あるはずのない場所に死体が見えます。震災から2年ほどたった頃、友人と、県内で有名

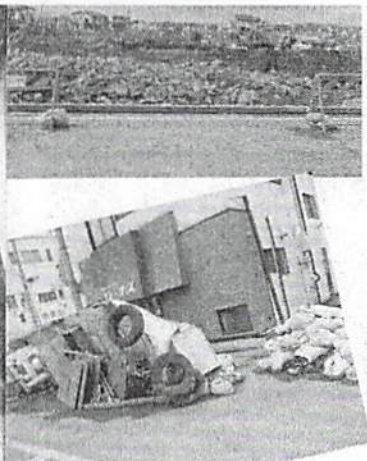
な心霊スポットに行きました。橋の上から滝が見える場所でしたね。車を降りると、高校生の制服を着た女の子が橋の上に立っている、おながかふつくらしている。妊娠しているように見えた。そして、そばの地面には赤ちゃんが置かれていました」

震災直後、この手の話はいたるところにあったというのだ。ジャーナリストの窪田順生氏が言う。

「震災後、東北出身の友人から幽霊が出る話は聞いていました。私自身は信じないタイプですが、全てPTSDで片づけてしまうのはどうか。科学では説明できないことはある。幽霊がきっかけで遺体が発見されたこともあるそうです」

前出・金菱教授は、「ある礼節を持つて幽霊に接することで、静寂な気持ちで無念をすくい取るイタコ的な存在となる。工藤はドライバーたちを、そのように位置づけました」

「震災幽霊」がそうした場所に降り立ったのは、自然の成り行きだったのだ。



震災直後の石巻市では家屋が流され道路に船が転がっていた